

令和元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	平成13年4月1日
法人名	医療法人ゆりの会		
事業所名	グループホームゆり苑		
所在地	(〒221 -0802 ) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年4月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様が安心して生活を営むことができるよう支援させていただいております。入居者様お一人お一人の思いを尊重し、その方らしい時間を過ごしていただけるよう支援しております。  
また、季節の行事や外出レクリエーション等を通し、地域の方との交流や季節感を感じ、楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年3月4日	評価機関 評価決定日	令和2年3月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

◇家庭的な雰囲気での利用者の自立を支援  
職員は利用者の自由な自己決定を第一に、本人の選択や行動を大切にしている。近隣商店街への散歩や買物、理・美容室の利用、また、入所前に通っていた作業所にも出かけている。

元旦には、利用者全員が「今年の抱負」を発表し、結果をリビングに掲げて話題にしながら暮らすなど、家庭的な雰囲気の中で、その人らしい暮らしを支援している。

◇連携がとれ充実した医療看護体制

利用者は、運営法人が設置した隣接するクリニックの協力医に随時受診できるほか、緊急時には、夜間でも必要な処置を受けることができる。

また、運営法人から派遣される協力医と訪問看護師および、事業所ビル1階薬局の薬剤師とが連携をとり、利用者の体調の変化や精神面の不安に対して、速やかに対応可能な医療・看護体制が採られている。

#### 【事業所が工夫している点】

◇利用者の好みに配慮した食事の提供

職員は交代で、近隣商店に出向き利用者の好みに配慮した食材を購入して、調理している。利用者の中には、調理が得意な方がおり、職員は和食の味付けや人数の食事を素早く調理するポイントなどを聞きながら調理に生かし、食卓の話題にもなっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域に関心を持ち、入居者に出来事などを伝え、共有し、催し物には参加している。	・職員は、理念の「入居者の自由を尊重し自己決定を促し自立を支援する」に沿って、利用者の性格を理解し、必要以上に手伝わないことを念頭に置いて、ケアにあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物は地域の商店街へ、町内会の催し物、祭りに、職員同行し交流している。	・町内会に加入し、地域の盆踊りやお楽しみ昼食会に参加している。幼稚園児を招きひな祭りや七夕を催し、地元ボランティアの訪問による歌の会を楽しんでいる。 ・利用者は、職員の支援により散歩や事業所の食材購入に同行し、地域住民とは日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談に適時応じることにより活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、入居者様の様子、行事、事故報告等の報告を行い、話し合い、意見交換を行っている。いただいたご意見はサービス向上に活かすよう努めている。	・2か月毎に、家族代表、町内会役員、地域包括支援センター職員、民生委員など関係者が出席して意見交換している。 ・会議出席者とのご縁で、大正琴のサークルの定期的な演奏が実現するなど、情報の活用に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多く入居している為、生活支援課の方と連絡を密に取り、実績を伝え協力関係を築いている。	・介護保険や生保の手続きなどで区の関係窓口とは、常に連絡を取っている。 ・運営推進会議の議事録を高年齢支援課に送付し、事業所の取り組みや課題について理解を求めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通じ身体拘束等の適正化に伴い設けられた新たな基準について理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	・3か月毎に「身体拘束適正化委員会」を開催し、事例研究などで身体拘束の正しい理解に努めている。 ・事業所は交通が頻繁な商店街に面しており玄関は施錠しているが、外出の気配があれば別フロアや屋上に案内して他の話題を提供し、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束について定期的に資料に基づき勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加によって学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は直接のご説明を行い、改定の際は直接又は書類を送付することによりご理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は常に管理者、職員また外部の方に要望を伝えることができる環境にあり、それらを運営に反映させている。	・利用者からの希望は、買い物など対応可能なものは実施し、運営面に関することは、職員間で話し合っている。 ・家族の来所時や連絡を受けたときは、利用者の様子や家族の意向について話し合い希望に添ったケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見・提案を聞く機会を設けており、運営に反映させている。	・職員会議と同時開催のケアカンファレンスで職員の意見・提案を話し合うほか、管理者は日常業務の場で職員の意見を聞き、運営に反映している。 ・日勤と夜勤の勤務形態の違いによる業務や報告要領などの職員提案が、業務改善に生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時管理者、介護主任等を通じ状況報告を行い、それに基づき職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は特にこれらに関わっていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は特にこれらに関わっていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族を交え、ご本人の様々な要望等をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族の要望、心配事等をお聞きし、必要事項は説明し、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人、ご家族とよくお話をし、今必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自ら入居者様に歩み寄ることで暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には常にご本人様の状況を伝えることができるようにしており、面会もいつでも来ていただけるよう常に良い環境作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が馴染みの場所に行ったり、人に会ったりすることができるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣に住んでいた利用者が多く、散歩や買い物、理・美容室を利用の折、なじみの商店主との話を楽しむなど関係継続に努めている。</li> <li>・職員と一緒に年賀状を買いに出掛け、書くのも手伝ってもらい旧友との関係を継続している利用者もいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性をよく把握し、行事やレクリエーションを共に楽しんだり、簡単な家事作業を行っていただくことにより支え合うことができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他の施設に移られても必要時にご家族と連絡を取り、相談支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者の訴えに耳を傾け、要望、意向の把握に努めている。	・比較的元気な利用者が多く、日常生活の中で思いや希望を直接聞き取っている。 ・把握が困難な場合は、喜んだり機嫌が悪いときの状況、家族や医療関係者の話などから、利用者の気持ちを推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されることが決まったときから入所後まで近親者やそれまで利用されていたサービス関係者からご本人の生活歴や暮らし方等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に見守りや声掛けを行うことによって心身の状態、有する力等の状況を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、職員、主治医、訪問看護師、訪問歯科医、区役所の方等色々な方から意見や助言をいただき、それを基に計画作成を行っています。	・本人や家族、職員と医療関係者の意見を集約し、2か月毎のカンファレンスで介護計画を作成している。 ・短期6か月、長期1年の目標でモニタリングを行い、変化が見られるときは、その都度計画を見直し、職員への周知と家族へ連絡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別のケア記録や定期的開催される職員会議にて情報を共有し実践、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は職員の不足や高齢化という現状があり、現実的ではない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、商店街、保育園、地域の施設等、地域の方々にご支援いただき暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族ご希望の医療機関での医療を受けられるよう支援している。	・内科・皮膚科は、本人と家族の了解を得て全員が協力医を受診し、精神科など専門科は家族や職員の支援でかかりつけ医を受診している。 ・訪問歯科診療や看護師の訪問看護や健康管理など、適切な医療支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアで気づいた点を訪問看護師に伝え、相談し入居者さんが必要な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	弊苑主治医、入院先の病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりご本人、ご家族と必要に応じて話し合いを行い、希望に沿って重度化した時の終末期対応が出来る様取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に、利用者と家族へ、重度化した場合や看取りの対応に施設の限界があることを説明し、了解していただいている。</li> <li>・重度化した場合に備えて家族と話し合い、終末期対応が可能な高齢施設への移転を支援している。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が責任感と意識を高める為避難訓練に加え、AEDの使用方法、通報や連絡の取り方など急変時にも対応できるよう定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川消防署・地元消防団・町内会との連携協力体制を築く事ができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回避難訓練を行い、内1回は夜間想定訓練をしている。</li> <li>・消火器、スプリンクラーが設置され、防災用品と水、アルファ米や羊羹など3日間の食料を備蓄している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生に備えて食料や防災用品を備蓄していますが、今後リスト化し、品目や食料品の消費期限を管理することが期待されます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格尊重やプライバシーを守るよう接遇について定期的に職員会議、日々の申し送りで話し合いを行っている。	・職員同士の連絡には、利用者名ではなくイニシャルを使っている。 ・利用者のクスリや体温、血圧、脈拍等の情報は、個人情報ファイルや個人ケアファイルに記録し、スタッフルームで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、自由に希望や思いを伝えていただけるような環境作りを心がけ、伝えることが難しい方には職員の方から声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活での決まり事は最低限とし、入居者の生活ペースを崩さないように職員各位は留意し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されているかたは自由に行っていただき、援助が必要な方には声かけ、見守りをしながら気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食職員が栄養を考え、かつ入居者様に喜んでいただくことができる手作りの食事を提供している。簡単な準備や片付けなどは入居者様にお手伝いしていただいている。	・毎日の食材は、近くのスーパーで購入して、職員が手作りで利用者提供している。本人の体調によっては、刻み食やとろみ食にしている。 ・主菜には肉や魚料理を交互に提供し、誕生日には本人の希望を聞き、好きな献立にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録は毎日行い、その方に応じた食事形態にも配慮しながら支援している。水分をとることがあまりお好きではない方にも好みの物をお出しする等できるだけ工夫して飲んでいただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは元より、起床時や夜間の義歯洗浄も毎日必ず行っている。週1にて訪問歯科医により口腔内環境を診てもらい、指導を行ってもらっている。職員は必ずその場に付き添い指導を傾聴し、日々のケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は1人1人の排泄パターンを心得ており、必要な声掛けや介助を行っている。リハビリパンツや尿取りパットを使用されている方は特に不快な思いをされていることが十分注意し支援している。	・リハビリパンツを使用している利用者は2名のみで、他の利用者は布パンツで日中過ごしている。 ・利用者の大半は、自身でトイレにて排泄できるが、他の利用者には、排泄記録を参考に声をかけてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者様の食事・水分・排便状況の記録を日々行い、体調管理に努めている。必要時は医師、薬剤師に相談し、服薬を行う様にもしている。ラジオ体操等も行い、体を動かすようにも取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は定められた日に行っているのが現状ではあるものの、入浴の日を楽しみにしていただくことができている。1人1人にあった入浴の支援を行っている。	・週2回、月曜と木曜日午前中に入浴するほか、毎日ホットタオルで全身を拭き清潔感を保っている。 ・ゆず湯、菖蒲湯などで入浴を楽しんでもらい、一部利用者には好みのシャンプーを個別に用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は各入居者様の生活ペースをよく把握しており、そのペースに合わせて休息をとっていただくように支援している。夜間も見守りや声掛けをしながら安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の内服薬一覧がファイリングされており、常時確認できるようにしてある。薬の変更があった場合は必ず記録、申し送りを行い正確な服薬に努めている。薬の副作用等症状に変化がないかも常に見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担をもつていただき、充実感を味わっていただけるよう支援している。季節行事、外出レクリエーション等を行うことにより楽しみ事や気分転換をしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーション、町内会の行事に参加する等全員での外出支援を行っている。個々においては、ご家族との外出、作業所への通所、近所への買い物、理美容の為の外出支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所は、商店街内にあり利便性が高く、利用者は、職員と共にスーパーや理髪店に出かけている。</li> <li>・町内会の行事や盆踊り、食事会などに参加し、誕生会の企画で、ファミリーレストランなどに行くこともある。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理ができる方のみお金を持っていただき、外出された際、自由に買い物できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときにはいつでも苑よりできるよう支援している。個人の携帯電話を持っておられる方もいらっしゃいます。手紙、年賀状等自由に書いていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾りをしたり、行事の写真を飾り、入居者様が楽しんでいただけるような空間を作っている。又、常に快適に過ごしていただけるよう空調も整えている。	・リビングと食堂は、建屋の4階にあり明るく眺望に優れている。 ・リビングでは、利用者がカラオケや大正琴を楽しみ、季節の行事や誕生会の写真が掲示され、家庭的で和やかな居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の日常の様子を観察し、席替えを行ったりして居心地よく過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際、居室にはご本人が愛用されてきた物を置いていただき、安心して暮らすことができるようお願いしている。	・内窓の障子には、落ち着いた雰囲気と明るさがあり、利用者は使い慣れた家具を持ち込み、居室でテレビを楽しみ居心地よく過ごしている。 ・職員は季節毎に、衣類整理を手伝い掃除や換気に配慮し、本人が気持ちよく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての入居者様に安全を確保したうえで階段を使った生活をしていただいている。居室・トイレ等が分からなくなってしまうないようにお名前や表示をつけるようにしている。		

# 目標達成計画

事業所名 グループホームゆり苑

作成日 令和2年 3月 25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		災害発生に備えて食料や防災用品を備蓄しているが、それらをリスト化し、品目や食料品の消費期限を明確にすることができていない。	備蓄品をリスト化し、品目、食料品の消費期限を明確にし全職員に周知させる。	備蓄品を増量し、リスト化し、食料品に関しては消費期限を明確に気記載し、定期的に点検する。全職員にも備蓄品について認識を高めてもらうよう職員会議にて検討し、それに基づいてリスト化する。	6か月
2		災害対策として、火災・地震・水害時、昼夜を問わず利用者を避難させる（又、その時どのように職員は動くか）についての方法を職員全員が身につけることができていない。	年2回の避難訓練には毎回異なった職員に参加してもらう。	職員会議を通じて災害時の避難方法、職員行動マニュアルを再検討する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。